

## 協働提案事業の評価について

NPO等活動推進協議会の評価結果は下記のとおりです。

### 杉並ごみ減量プロジェクト

実施主体	【提案団体】 こぶたラボ、【区】ごみ減量対策課
事業内容	家庭から出る生ごみは、可燃ごみ全体の約4割を占める。区内全体のごみ量を減らしていくには、家庭で簡単に取り組める生ごみ減量施策が有効である。本提案は、生ごみを発生させない調理法や保存法などを指導する教室を開催し、この取組をNPOが持つママさんネットワークを活用して、地域に広げていくものである。
総合評価	「C+」
<b>【付帯意見】</b> <p>本提案は、杉並区ごみ減量対策事業計画係と「こぶたラボ」との協働事業によって、家庭から出る生ごみの排出量を減らすために、区内のママさんネットワークや親子カフェといった地域資源を活用し、健康志向調理法を普及させることで、生ごみの減量に向けた持続可能な方策を開発していこうとするものです。</p> <p>昨年度は、(1) 本協働提案が提案団体の本来のミッションとは異なるものであり、他団体の専門家などの協力が必要なのではないのか、(2) 本協働提案の事業を展開していくうえで、実現可能な目標設定を行い、事業のそれぞれの段階ごとに目標値を明確に設定しておくべきではないのか、(3) ごみ減量のためのマーケット・リサーチを行い、分析する能力開発が必要なのではないのか、このような問題点が指摘されていました。</p> <p>今年度も、協働事業者からの事業報告プレゼンを踏まえて、委員からさまざまな意見が提出されています。肯定的なものとしては、(1) 環境問題を啓発していくための事業であり、今後も必要な事業であることは理解できる、(2) 啓発事業の一環として杉並区内の清掃事務所を活用している点は評価できる、(3) 杉並区で活動している複数の団体の協力をえて事業を実施しており、民間のネットワークを活かしていこうとする姿勢がうかがわれる、このような意見が出されています。それに対して、疑問点としては、(1) 初年度の提案団体と今年度の提案団体が違っており、今年度の提案団体である「こぶたラボ」は子育て支援の色彩が強くなっているのではないのか、(2) 参加者の人数が少なく、そのため区民に対する周知が実現できておらず、費用対効果という点でメリットが感じられない、(3) 次年度もまた少人数の講座を開催すると提案されているが、講座の回数は減らされており、少人数講座に事業経費をかけすぎてしまう懸念があり、また事業計画、経費予算とも縮小されており、これでは波及効果は望めない、(4) 参加者を広く募っていくのは難しいかもしれないが、子育て世代に限定するのではなく、杉並区との協働事業のメリットを活かして、初年度の提案に盛り込まれていた小学校でのごみ減量の周知活動を行っていくべきではないのか、(5) プレゼンにおいて一つの成功事例を突破口にして事業展開をしていくという説明があったが、今後の事業展開の展望がはっきりしていない、このような意見が出されています。</p> <p>本事業を継続するに際しては、上記疑問点を克服すべく取り組むとともに、本提案が、区のごみ収集作業の減量をめぐる課題解決だけでなく、家庭内の生ごみ減量作戦の展開による環境問題の解決という大きな課題に関わるものであるため、公民の両セクターの協働によって杉並方式の展開と確立につながる展望を見いだしてもらいたいものです。</p>	

【参考】評価項目及び総合評価基準は「協働提案評価集計表」のとおり

# 協働提案評価集計表

事業名	杉並ごみ減量プロジェクト
-----	--------------

担当課	環境部ごみ減量対策課事業計画係
-----	-----------------

提案団体名	こぶたラボ
-------	-------

No.	評価項目	評価のポイント	評価 (評価員平均)
1	課題・ニーズ把握	今年度の事業実施を踏まえ、あらためて地域のニーズや課題を把握し、次年度の事業を計画しているか。	C+
2	目標設定	今年度の事業実施を踏まえ、具体的な目標を設定しているか。	C
3	協働の効果	協働で事業等を実施したことで事業成果が得られ、次年度も協働で事業を継続することで、より高い効果が得られるか。	C+
4	地域資源の活用	地域資源(自然環境、産物、施設、文化、歴史等)や地域人材を有効に活用した事業を実施し、次年度もさらなる活用を図っているか。	B-
5	区民満足度	事業の実施により区民の満足度が向上し、次年度も満足度を高める事業内容になっているか。	C
6	団体の事業実現力	提案団体は、必要な知識・経験・実績・特性(強み)を生かしながら事業を実施し、次年度の事業にも活用しているか。	C+
7	団体の事業組織力	提案団体は、的確な実施体制(人員配置、財務状況、他団体との協力ネットワーク等)により今年度事業を実施し、次年度も必要な実施体制を有しているか。	B-
8	計画性	今年度の事業が、事業計画等に沿って的確に行われ、次年度の事業計画等も実行可能なものとなっているか。	C+
9	経済性	次年度の事業経費の規模、資金計画、経費分担、経費内訳、算出根拠等が明確かつ適切か。	C-
10	創造性・新規性	今年度の事業実施を踏まえ、さらなる発想、アイデアを有し、課題解決に向け積極的な事業内容となっているか。	C
11	継続性・波及性	次年度以降も発展・継続する可能性があり、地域へのさらなる波及効果が期待できるか。	B-
<b>総合評価 (評価員7名の平均)</b>			<b>C+</b>

※委員評価点

A…特に期待できる(5点) B…期待できる(4点) C…標準的である(3点)

D…あまり期待できない(2点) E…期待できない(1点)

※総合評価基準

A	B+	B	B-	C+	C	C-	D+	D	D-	E
特に期待できる	←期待できる→			←標準的である→			←あまり期待できない→			期待できない
5~	4.44	4.14	3.74	3.44	3.14	2.74	2.44	2.14	1.74	1.44
4.45	~4.15	~3.75	~3.45	~3.15	~2.75	~2.45	~2.15	~1.75	~1.45	~1